

おたふくかぜ(耳下腺炎)

原因

ムンプスウイルスの感染による

感染経路

唾液とともに鼻や口より接触または飛沫として侵入し、咽頭粘膜で定着して所属リンパ節で増殖します。ウイルス血症を経て神経系や全身の組織・臓器に病変を起こします。唾液腺が最も感染を受けやすい臓器です。

潜伏期間

2 ～ 3 週間

症状

非常に個人差が激しく、本人や親が全く知らない間にかかっていることもあります(不顕性感染)。腫れる場所は、左右の耳下腺と顎下腺の4カ所あります。耳下痛や同部位の圧痛を認め、耳下腺は2～3日で急速に腫大します。境界不鮮明で発赤はありません。通常1～2日後に他側の耳下腺炎を認めますが、片側だけの腫脹で終わるものも約30%あります。耳下腺腫脹のピークは1～3日続き、発熱を伴うこともあります。約1週間で消失します。

治療と看護

特別な治療法はありません。

- 熱や痛みに関しては、解熱・鎮痛剤の頓用や冷湿布を行います。
- 食事は腫れて痛みの強い間は、流動食～柔らかいもの(スープ、プリン、粥、豆腐、うどんなど)にします。ただし酸味の強いものは、唾液の分泌を高め、痛みを増強させるので避けたほうがよいでしょう。
- 入浴は短時間なら構いません。

隔離期間

唾液腺の腫れがひくまで(4～14日、平均8.8日)

合併症

- ①**無菌性髄膜炎**：2～10%前後に合併します。第4病日以降、発熱・頭痛・嘔吐・項部硬直などの症状がある場合は、髄膜炎の疑いがありますので必ず受診して下さい。髄液検査で診断します。この髄膜炎は、予後良好で普通は後遺症を残しません。
- ②**膵炎**：発熱、激しい上腹部痛、嘔吐などを伴って急激に発症しますが、3～7日で徐々に改善します。
- ③**睾丸炎・卵巣炎**：思春期以後にかかると、睾丸炎(20～30%)や卵巣炎(5～7%)を併発することがあります。性腺機能が障害されることはまれです。
- ④**ムンプス難聴**：2万人に1人の割合で発症し、ムンプス罹患後に片側性の感音性難聴をおこします。難治性の聴力障害を残します。

予防法

ムンプスにかかっていない人は、早めにワクチンを受けましょう。抗体がつく率は約90%です。

(2002.8)